

令和 4 年度 学力調査結果の分析

【国・都・市調査】  
清瀬市立清瀬第二中学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国語	第 2 学年	全体的では、全国平均並みで、漢字の読みや文法、語句、文章の読解能力は平均以上だった。反面、漢字の書きや記述式解答での苦手意識が顕著であった。日常の言語活動でも語彙の不足が目立ち、自分の考えや意見を言語化して表現する取り組みが必要である。	文学的、説明的文章を読む力や言語に関する項目は全国平均並みの正答率だった。自分の意見や考えまとめを言語化する力、記述式解答に対応する力が不足している。語彙を増やす取り組み、自らの考えを書くことを意識した活動を増やす必要がある。
	第 3 学年	全体的に、ほぼ全国並みだった。考えたことを表現する力に課題がある。漢字の書きや書写の分野では結果が良かったが、資料を活用する活動では不正解が目立つ。普段の授業の取り組みの中で、情報を活用してまとめる力を養う必要がある。	内容別に見ると、知識及び技能の分野に対して思考力・判断力・表現力の分野に課題があり、特に書くことと読むことが低かった。文章を読みとることはできていても、それを文章で表現する力に課題がある。語彙力を増やし、同様の課題に繰り返し取り組む必要がある。
数学	第 2 学年	関数とデータの活用については平均並みであったが、図形は平均を上回っていた。また、数と式に関しては全体的に定着してきていることがわかった。データを分析して自分の考えを言葉で表すことが苦手、そもそも未記入の生徒がいるため問題の説明や自分の考えを発表する機会を増やす必要がある。	全体的には、全国平均並みだった。知識・技能については平均以上であったが、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度に課題がある。普段の授業中でも、ただ問題が解けるだけでなく、教え合い活動や日常生活に置き換えた問題に挑戦する環境を作っていく。
	第 3 学年	図形分野が全国平均を下回っていたが、その他の観点では平均以上であった。基礎的な計算などの処理能力が身についてきているが、図形の証明など問題では無回答の生徒が目立った。普段の授業でも、考えの根拠となることながらを説明する活動や、基本的な型となる問題を何度も繰り返し取り組む必要がある。	知識・技能、思考・判断・表現のどちらの観点も全国平均を少し上回る結果であった。一方で、記述式解答に対応する力が不足していた。基本的な問題を繰り返すことで、解き方の型を身に付けさせる必要がある。また、問題に対する自らの考えを書くことを意識した活動を増やしていく。
理科	第 3 学年	ほぼ全国並みの結果であったが、基礎的な知識や技能の習得に関し課題が見られる。普段の授業内に置いて生徒に知識が身に付くようにこまめな振り返りテストなどを実施していく必要がある。	「生命」を柱にした領域に関しては全国および東京都と比較しても達成度は高い一方で、「地球」を柱にした領域ではやや課題が残る結果となった。特に気象分野のグラフやデータから読みとる苦手を残している。実験を行った際に数値の変化から読みとれることを考え、まとめる活動を増やしていく必要がある。
	学年	結果の分析	

意識調査	第1学年	新たな目標を持って入学してきた1年生にとって中学校の授業に対する取組も真面目に取り組む状況である。家庭学習では、ほとんどの生徒が2時間以上の家庭学習をしている。今後の学習の取り組みの家庭学習での支援を具体的にしていく。基礎基本を繰り返し、徹底させていく。
	第2学年	2年生は、1年生のときの学習を生かし、いろいろと工夫することができ始めている。そのため、「学習する理由」について、分かることややできることが楽しいからと回答する生徒が多い、しかし、漢字を覚えるなどの回答が低いので、基礎的な部分も大切にするように伝えていく必要がある。
	第3学年	3年生ということで、受験も意識して各教科とも学習に前向きに取り組んでいると回答する生徒が多いものの、逆に学習面で不安を抱え「学習の進め方」や「どのくらい得意ですか」の質問に低い回答をする生徒も多く見られた。間違えた問題の復習についても回答が低かった。